



2007年3月30日

## ロールス・ロイス製ガスタービンが米国海軍の最新鋭戦闘艦向けに選定される

【米国マサチューセッツ州ウォルポール 2007年3月26日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開をするロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、米国海軍の最新鋭戦闘艦向けに、世界最大の推力を誇る船舶用ガスタービンを供給する契約を締結しました。

供給されるのは、ロールス・ロイス製の MT30 ガスタービン発電システムで、DDG-1000 駆逐艦（ズムウォルト級）2隻向けに4セットが2009年より引き渡される予定です。

MT30 は現在、米国フィラデルフィアにおいて米国海軍の DDG-1000 陸上試験場に電力供給されているほか、ロッキード・マーチン社初の沿岸戦闘艦（LCS）2隻の発電システムとしても選定されています。

MT30 は、60 を超える航空会社および運航会社の旅客機において 2,000 万時間以上の累計飛行時間を達成しているロールス・ロイス製航空機用エンジン、Trent ファミリーの1つです。

ロールス・ロイスの海軍船舶部門社長、パトリック・J・マロルダ（Patrick J. Marolda）は次のように述べています。「DDG-1000 は、米国海軍の最新システムのプラットフォームであり、当社がその一役を担えることを大変光栄に思います。またこの度の MT30 選定は、米国海軍ならびに世界市場に対してガスタービンシステムを供給する当社および当社の技術力に対する信頼の証を表すものです。」

この新型駆逐艦 DDG-1000 は、米国ミシシッピ州パスカゲーラのノースロップ・グラマン・シップ・システムズ社（Northrop Grumman Ship Systems）およびメイン州バスのゼネラル・ダイナミック・バス・アイアン・ワークス社（General Dynamic Bath Iron Works）によって製造され、1隻目の引渡しは2012年の予定となっています。

DDG-1000 には最先端の戦闘機能および船舶推進技術が搭載され、沿岸攻撃や空中攻撃を含むさまざまな状況に対応可能な設計となっています。

### ご参考：

1. 本リリースの添付写真は、ロールス・ロイスのウェブサイト <http://www.rolls-royce.com/media/search.jsp> をご覧ください。
2. MT30 は、米国海軍規定である 36 メガワットの認証を取得しており、華氏 100 度（摂氏 38 度）での標準耐久試験を完了しています。MT30 は発電システムとしても、駆動アプリケーションとしても稼働可能です。

3. DDG-1000 プログラムは旧 DD(X)です。
4. ロールス・ロイスは、陸・海・空において動力ソリューションを提供する世界のリーディングカンパニーであり、民間航空、防衛航空、船舶、そしてエネルギーの 4 つの市場に進出しています。各分野の革新的技術とその可能性に迫り、投資を通じてそれぞれの事業の基盤となる高いレベルの製品群を作り上げています。弛まぬ努力を通じて、当社は比類のない地位を築いています。
5. ロールス・ロイスの船舶部門は 34 カ国で従業員 7,400 人を抱え、英国、北欧諸国、米国に主要製造施設を置いているほか、アジアにおいても増加しています。